

愛知県公文書館

企画展

～入場無料～

# 近世愛知の城下町と村

平成20年10月1日(水)～11月28日(金)



## 愛知県公文書館

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 土・日・国民の祝日
- アクセス 地下鉄名城線「市役所」下車 5番出口
- 所在地 名古屋市中区三の丸2-3-2 愛知県自治センター7階
- 電話番号 052-954-6025
- HP アドレス <http://www.pref.aichi.jp/kobunshokan/>

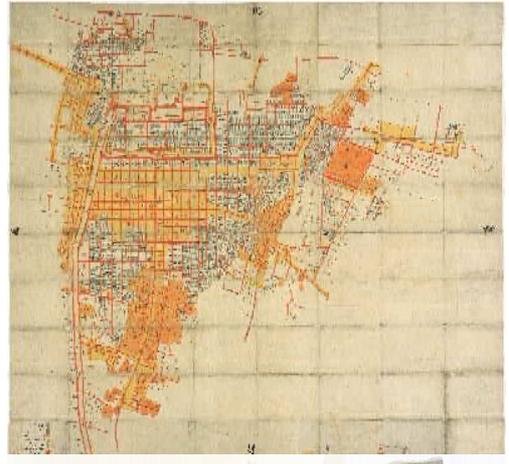
## 主な展示資料

### ○ 享保十四酉年名護屋絵図

(愛知県図書館蔵)

享保14年(1729)の名古屋城下絵図。本絵図からは、当時の名古屋城下における上下水道の流路が具体的に分かる。城下西北に位置する巾下地区には各武家屋敷に配水するための上水道が描かれ、城下諸水路はその維持管理(さらえ)責任を明確にするため色分けされている。

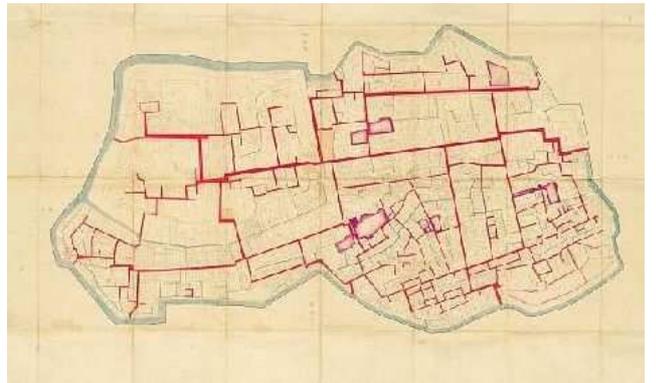
また、各武家屋敷地等には所有者、間口・奥行きの記事がある。



### ○ 地籍町分全図 三河国幡豆郡西尾市街

(愛知県公文書館蔵)

明治17年(1884)頃の西尾城下を描いた地籍図。内堀跡や周囲を廻る外堀跡の溝渠、寺社地・道路などは色分けで示されており、同図面全体が城郭、城下町に当たる。この時代の土地状況は江戸時代末期とあまり変化がなく、江戸時代の城下図と併せて見ることにより、城下町をより具体的に明らかにすることが可能である。



### ○ 尾張国海西郡藤ヶ瀬村絵図面 嘉永3年(1850)

(愛知県図書館蔵)

江戸時代後期、藤ヶ瀬村が作成し、尾張藩に提出した村絵図の正本である。田畑・池川・堤などは色分けされ、寺社・川並番所・給人横井氏の屋敷などが記されており、江戸期の村落の様子が良く分かる。同村は給人横井氏の給知であり、藩主より特別に同村内に屋敷地を持つことが許されていた。藤ヶ瀬村は現在の愛西市に当たる。



### ○ 覚(尾張藩佐屋陣屋調達金受取) 天保12年(1841)

「尾張国海東郡蟹江新田戸谷家文書」

(愛知県公文書館蔵)

江戸時代後期になると尾張藩の藩財政はますます悪化し、藩は各村方に対して借財返済のための献金、調達金を求めた。調達金はあくまでも借入金で、その元利払金は巨額なものとなり、慢性的な財政赤字をもたらした。写真は海東郡蟹江新田金主宛てに出された調達金187両2分の佐屋陣屋受取状。同新田は現在の蟹江町に当たる。

